

何も式日は不定

〔親元日記〕文明十五年正月十一日乙巳伊庭六郎左衛門尉貞隆方より貴殿へ年始御禮百濟寺進之菱食一鳥六海老百種十荷三月二日甲午土岐殿より荷がはりの鴻進上之翌日備上覽之處無御用之由被仰出之間同四日ニ返遣之

〔幕朝年中行事歌合〕中三十番 右 賜雁

誰もみな君にこゝろのよると鳴たのむの雁は是にや有らん

判云略中 賜雁はもと寛永の頃有て中絶しを享保の頃に起させ給ふとかや城主の輩には御使して給ふ也さなきはべちにとの、中におひて雁の羹給ひし事も有しとか皆君と人との親み深き御誕なるべし略中

賜雁は三家三卿のかたぐゝをはじめ國主城主にいたるまで鳥飼の雁を賜ふ也

〔寛政四年武鑑〕尾張大納言宗陸卿名古屋時獻上十月雁 紀伊中納言治寶卿和歌山時獻

上歸國雁 水戸宰相治保卿水戸時獻上寒雁 松平越前守重富越前時獻上在國

拜領之御雁鳴 松平肥後守容頌陸奥時獻上五月水漬雁 松平陸奥守齊村陸奥

時獻上暑初菱喰陽菱喰

〔香取神宮古文書纂〕五木本彌次右衛門方之飛翰令披見候爲年頭之祝儀菱喰壹羽饋給候誠以遠路之所御心入別而令満足候猶期永日恐々謹言

正月廿三日

松出雲守 勝隆 花押

香取大彌宜殿 御宿所

雁利用

〔宜禁本草〕坤鶴大曰鴻冬南翔夏北征甘平無毒主風擊拘急偏枯氣不通利長毛髮六七月勿食傷神其分知陰陽少之行序得中和之氣寒熱則即南所以爲禮幣一以取其信肪生髮治鬢